血清亜鉛低値を有した乳児湿疹の１例

大藤（おおふじ）　聡（さとし）[1)]　瀬島（せじま）　斉（ひとし）[2)]

キーワード：亜鉛低値，亜鉛欠乏症，乳児湿疹，乳児アトピー性皮膚炎

要　旨

症例　８カ月男児　在胎39週４日，体重3,074ｇで出生。完全母乳栄養。生後４か月ごろから顔面を中心に発疹が出現，悪化した。他院を受診したが軽快せず当院紹介受診。

初診時，顔面・体幹・四肢に過角化・鱗屑・紅斑がみられた。両頬には厚い痂皮が付着していた。発熱と痰がらみの咳嗽あり当院小児科入院した。入院時検査で血清亜鉛の低値があった。ウイルス感染症による気管支炎と同時に乳児湿疹二次感染の治療をおこなった。入院翌日には解熱し退院。最初，外用薬のみでは乳児湿疹の治療反応性は不良であった。経口亜鉛製剤を用いたところ，掻破によって治癒しなかった頬の痂皮と全身の発疹は軽快した。

はじめに

生後２～３週間から数カ月までの間の乳児では様々な原因により湿疹・皮膚炎を生じやすく，総称して乳児湿疹と呼ぶことがある。これらは①乳児の脂漏性皮膚炎，②アトピー性皮膚炎，③接触皮膚炎，④食物アレルギー，⑤白癬やカンジダ症のほか，Wiskott-Aldrich 症候群，高 IgE 症候群，Netherton 症候群，Langerhans 細胞組織球症などの稀な疾患をふくむ①～④に該当しないその他の疾患，が含まれる[1)]。乳児においては脂漏性皮膚炎とアトピー性皮膚炎の鑑別が重要である。また「おむつ皮膚炎」や「口なめ病」のような原因となる刺激物質を見落とさないことも大切である。

川村らは亜鉛欠乏症患者の皮膚は「皮膚易刺激性の亢進」が存在することを示し，それ以外にも皮膚免疫能の低下，創傷治癒の遅延，皮膚脆弱性，皮膚の乾燥などの異常と関連する可能を示した[2)]。亜鉛は，300種類を超える酵素の構造維持や機能に関与するとともに，2,000以上の転写調節因子の発現や機能にも関与し，また細胞内シグナルのセカンドメッセンジャーとしても機能することで細胞の増殖および発生・分化あるいは免疫応答に重要な役割を果たしている[3, 4)]。亜鉛欠乏による皮膚症状は先天性腸性肢端皮膚炎と２次性腸性肢

Satoshi OFUJI et al.
1）雲南市立病院皮膚科
2）雲南市立病院小児科
連絡先：〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1
雲南市立病院